学校番号	３２６

令和３年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高校美術１（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年次においてはデッサンの基礎的な知識や鉛筆の削り方から、丁寧に指導していきます。デッサンにおいては静物デッサンを主に行います。その過程で遠近法や調子のつけ方などの指導をおこないます。アクリルガッシュやポスターカラーなどの多様な絵の具を使った平面作品、切り絵や彫刻など、工芸の要素のある課題まで幅広いカリキュラムを組んでいますので楽しみながら技能、技術を身につけることができます。

2　学習の到達目標

絵画の歴史を理解し現代における美術のあり方を考える思考力を身につける。デッサンの基礎的な知識を身につけ、その知識を実際の制作で生かす思考力や工夫する能力を養い、作品を制作する喜びを体験する。様々な課題を通して手作業をする事の楽しさを体験する。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	制作するモチーフや画材、作業に関心をもち積極的に授業に取り組む。授業の時間配分、作業手順を正確に理解し、与えられた時間でより良い作品を作る意欲を持つ。	自分の個性を生かし、それを表現する方法や技術を模索する。	水彩絵の具の道具の使い方、アクリルガッシュの道具の使い方を習得する。彫刻刀の使い方を習得する。	絵画の歴史や作家の作品を知り、作品の制作された個人的、歴史的背景を理解する。作品に使われた画材などの特徴を理解する。
評価方法	・提出作品 ・観察	・提出作品 ・観察	・提出作品 ・観察	・観察

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	デッサンの基礎	・用具、用材の使用方法について ・デッサンの歴史 ・形の捉え方 ・陰影を使った立体感の出し方	○	○	○	○	a:積極的に授業を聞き、能動的に上達しようとする姿勢が見えるか。 b: 形を正確に描写できている。 c: 鉛筆を適切に使用している。 d:明暗を使った立体表現を行っている。	・提出作品 ・観察
1	アクリルガッシュの制作	・画材の使用方法 ・色彩を使った表現について	○	○	○	○	a: 絵画の歴史を知る。 ｂ:色彩を使った描写ができている。 ｃ:アクリルガッシュを上手く使いこなしている。 ｄ:道具の使い方を正確に理解している。	・提出作品 ・観察
2	切り絵の制作	・切り絵の制作過程の理解 ・下絵の制作 ・カッターを使った切り出し ・色紙の貼り付け	○	○	○	○	a：光や影の美しさに関心を持つ。 ｂ:独創的なデザインになっている。 ｃ:カッターの使い方は正確である。 d:制作手順を正確に理解している。	・提出作品 ・観察
2	ポスター制作	・ポスターの歴史 ・題材の設定 ・下絵の制作 ・ポスターの制作	○	○	○	○	a：ポスターによって表現される様々な題材に関心を持つ姿勢を養う。 ｂ:個性的な視点で題材を選ぶ ｃ:水彩絵の具の使い方を修得する。 ｄ:ポスターの歴史を学び、さまざまな作品の題材設定の背景を理解する。	・提出作品 ・観察

3	筆箱の製作	・彫刻刀の使い方 ・箱のデザインの下絵 ・彫刻作業 ・木彫り絵の具で着彩	○	○	○	○	A：木彫り作業を根気強く行なう態度、集中力を養う。 b：個性的で魅力的なデザインを作品に反映する。 c：彫刻刀の正しい使い方を修得する。 d：木彫り絵の具の特徴や艶出し材の知識を身につけ木彫り製品の良さを理解する。	・提出作品 ・観察

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力
c:創造的な技能　d:鑑賞の能力

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。